

雷門第一ビル

Kaminarimon Daiichi Building

No. 19-028-2020作成

新築

ホテル／事務所

発注者	清和総合建物株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	(株)安藤・間一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	(株)安藤・間東京支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

浅草の地に根差し、周辺環境との調和を目指した複合ビル

地域景観貢献

浅草という日本を代表する観光地で、インバウンドを相手にした商いを営む店舗の多い地域特性、そして新しくその一因になるホテル・事務所という用途を踏まえ、日本らしいおもてなし空間を創出し、地域に貢献することを目指して、設計コンセプトを設定した。



形態的には、『江戸格子・江戸小紋柄』や『町家の軒下空間』を手掛かりとしてまとめ、台東区景観資産の『東武浅草駅EKIMISE』や『神谷BAR』との連携を意図した。吾妻橋交差点から見える景観を意識し、周辺建物の壁面ライトアップ演出方法を協調させ、色温度は2700Kの照明器具を採用した。

江戸格子・江戸小紋柄のファサード

高層階の客室フロアは、押出成型セメント板のリブパネル(3種類・3色)を採用し、江戸小紋柄の持つ『規則性と多様性』をファサードに展開した。リブ形状パネルの陰影により表出される豊かな表情も意図した。

低層階の事務所フロアは、アルミカーテンウォール+ブルーグレー系Low-E複層ガラスを採用し、明るい事務所執務空間と透明感のあるファサードを両立した。方立てには化粧フィンを設け、カラースキームも含め縦フレームを強調し、格子のモチーフを表現した。



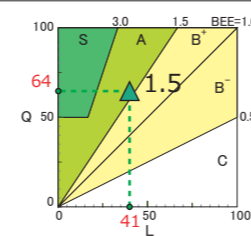
町家の軒下空間

設計コンセプトで設定した『おもてなし空間』を実現するため、馬道通り側に面した1階部分をピロティ空間として設えた。

歩道沿いには、台東区みどりの条例及び東京都緑化条例の整備基準に準拠した接道緑化空間を確保した。



建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 14 %	Aランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 33 %	BEE=1.5
敷地面積	LCCO ₂ 削減 17 %	2016年度版
延床面積		自己評価
構造		
階数		



環境負荷配慮

屋上緑化

東京都、台東区の緑化基準に準拠した緑地帯を、屋上の外周面を囲うように設けた。

Low-E 複層ガラス

客室及び低層部のカーテンウォールにはLow-E複層ガラスを採用した。日射熱を低減し、快適な窓際空間を創出した。

接道緑化

歩道に面したピロティ部分に緑地を設け、浅草の街並みに緑の潤いを提供した。

吹抜 (エコポイド)

客室階の建物中央に設けた吹抜(エコポイド)により、自然通風と、自然採光を確保した。周辺飲食店からの排気(臭気)に左右されにくい給気ルートを設けた。

外壁の断熱強化

外壁断熱材を30mmまで増強し、建物の断熱性能を向上させた。

LED照明・全熱交換機・冷暖房フリー空調システム

事務所スペースにはLED照明を採用した。また、全熱交換機型機械設備に外気冷房(ナイトバージ)機能を組み込むことで、昼間の冷房負荷の低減を目指した。また、同フロアに負荷が異なるエリアが混在しても冷暖房の切り替えが行うことができる冷暖房フリー空調システムを採用した。

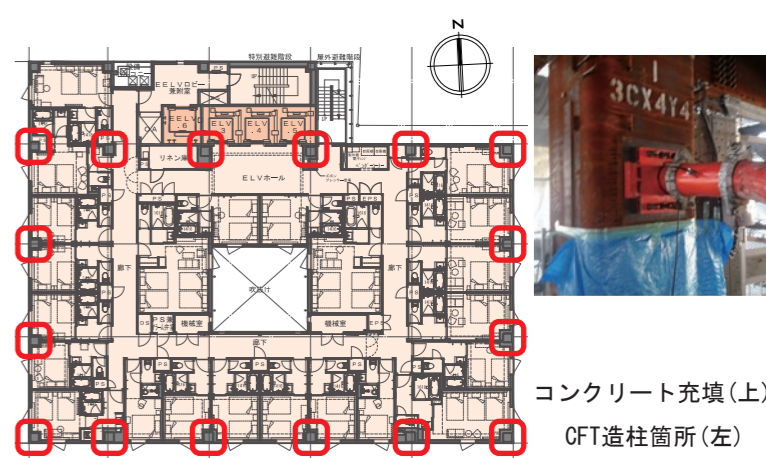
低炭素型BBFA高強度コンクリート採用によるCO₂排出量抑制

本建物の柱には、コンクリート充填鋼管 (CFT) 造を採用し、地球温暖化防止に向けた社会的背景ならびに、高強度コンクリートの品質向上の観点から、当社が開発した低炭素型『BBFA高強度コンクリート』を適用した。

BBFA高強度コンクリートの特長は、高炉セメントB種を結合材のベースとして、フライアッシュを一部置換することで、セメント使用量を抑制しつつ、強度、耐久性等の品質を確保したコンクリートである。

BBFA高強度コンクリートではセメントを副産物系の混和材料で置き換えることにより、普通セメントを用いた一般的な高強度コンクリートに比べてCO₂排出量を抑制できる。

さらに、今回は、CFT造の充填コンクリートに採用することを考慮して、膨張材を結合材の一部として添加することで、高強度領域で課題となる自己収縮を抑制し、鋼管との一体性向上を目指した。



コンクリート充填(上)
CFT造柱箇所(左)

設計担当者
意匠：室田武志、細谷有野、館岡静乃、水下竜也、中川桂佑
構造：池田洋一、田中勝也、渡邊敦志、阿部勇治／機械設備：金原英佑／電気設計：鈴木竜一

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (吾妻橋交差点からの景観を配慮した計画)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (街並みとの調和に配慮したピロティ空間、接道緑化)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (Low-E複層ガラスの採用、外壁への断熱材増強)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (周辺環境に左右されにくい吹抜からの給気ルートの確保)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明の採用、全熱交換機、冷暖フリー空調システムの採用)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮 (低炭素型BBFA高強度コンクリートの採用)